Japan Civil Engineering Consultants Association
社団法人 建設コンサルタンツ協会 近畿支部

クリエイトきんき 〔第4号〕

〒540-0005
大阪市中央区上町A番12号（建設保証ビル6F）
TEL. 06（6764）5891　FAX. 06（6764）5892
http://www.kk.jcca.or.jp

発 行 日：2003年1月10日

ご意見、お問い合わせは、create@kk.jcca.or.jp まで

第4号（2003年1月）

CREATE KINKI クリエイトきんき

〔テーマ〕震災、復興、まちづくり

CONTENTS

クリエイトきんき　第4号

テーマ 1 震災、復興、まちづくり

特集

総説 2 これからの都市防災を考える

インタビュー 4 コンサルタントはどう関わった

座談会 8 「野田北部」震災復興まちづくり

14 その時 私たち建設コンサルタントは

16 「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」を訪ねて

地域紹介

大阪 18 150年続いた『なにわの宮』

滋賀 19 万葉ロマンが息づく琵琶湖周辺の原風景

その他

20 会員名簿

21 水フォーラムのご案内

写真提供：国際航業株式会社

これからの都市防災を考える

神戸大学都市安全研究センター　室崎益輝

1. はじめに

東海地震や南海地震の発生が、秒読みの段階に入っている。専門家の間では、遅くとも21世紀の中頃までには発生するもの、と考えられている。それだけに、備えあれば憂いなしということで、災害に強い都市づくりが急がれるのである。

とはいうものの、地震時計の針を横目で睨みながら、都市の防災性の向上をはかることは至難の業である。備蓄などによる都市の表面的な繕いはともかく、市街地難燃化など都市の体質の改善は、江戸時代以降の何百年にわたる取り組みを見ても明らかなように、そう簡単にできるものではない。

といって、都市構造そのものの改善を諦めてしまっては、阪神・淡路大震災の二の舞になってしまう。ここは冷静に、過去の取り組みの不十分さを反省し、斬新な発想と強固な意思をベースに、都市防災への着実な取り組みを再構築することしかない。

そこでここでは、これからの都市防災のあり方を、阪神・淡路大震災の教訓に学びながら、具体的に明らかにしたいと思う。

2. 阪神・淡路大震災の教訓

これからの都市防災のあり方を考えるにあたって、何よりも1995年に発生した阪神・淡路大震災に学ぶ必要がある。大震災は、都市防災についての無数の貴重な教訓を、私たちに伝えているからである。震災の多大な犠牲に報いるためにも、その教訓を疎かにすることはできない。ところで問題は、無数の教訓の中から何を主要な教訓として引きだすか、ということである。

私は、「ソフト以上にハードに問題があった」ということに力点をおいて、教訓を引きだすように心掛けている。というのも、多数の犠牲者が生まれたの

も、長期の仮住まい生活を強いられたのも、住宅が無惨に倒壊し市街地が容易に炎上したという、ハードの弱点に起因しているからである。建物倒壊により何千人もの人が圧死したという事実、市街地火災により何百人もの人が焼死したという事実、そしてその殆どが１時間以内に命を失ったという事実をみれば、仮に情報伝達がスムースにいって自衛隊等が素早く活動したとしても、その命は救いえなかったといってよい。

震災で問われた都市の欠陥

ということで、本論では敢えて都市や住宅のハードな問題に絞って、大震災の教訓を明らかにすることにしたい。都市に係わるハードな問題点の第１は、被災そのものを防止する耐災性に欠けていたことである。つまり、住宅や市街地が地震等の外力に対して必要な抵抗力を有していなかった、ということである。住宅でみると構造耐力のない住宅が無数に放置されていたこと、市街地でみると燃えやすい市街地が広範囲に放置されていたことが、大規模被災を招いたのである。住宅の老朽化を防ぐ手だて、市街地の過密化を防ぐ手だてが、事前にとられていなかったことが、なによりも問題なのである。

Profile　室崎 益輝（1944年生まれ）
神戸大学都市安全研究センター教授
専門分野：都市、防災、広域避難
阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター上級研究員

第2の問題点は、被災の拡大を抑制し被害の局限をはかる緩和性に欠けていたことである。都市に、加害の破壊力を和らげる緩衝力や被害の波及や連鎖を断ち切る遮断力が欠けていた、ということである。火災の拡大を遮断する公園や緑地また道路や河川が、市街地の中に不足していたことが、ここではとりわけ問題となる。水害対策において氾濫水のコントロールをはかる遊水池の重要性が、またコンビナート災害対策において爆風等の緩和をはかる緩衝林の重要性が再認識されつつあるが、それと軌を一にする課題が突きつけられた。

第3の問題点として、麻痺や故障などの不測の事態をバックアップする冗長性※に欠けていたことが、指摘できる。輸送路の多重化が不完全であったこと、ライフラインの補完化が不十分であったことにより、各所で交通機能や都市機能がストップして、震災直後の救援活動や被災生活の混乱を招く結果となった。幹線道路の損壊による供給遮断を他の補給ルートの確保によってカバーすること、ガスや水道などライフラインの機能停止を井戸などのライフスポットの活用によってカバーすることが、ここでは求められる。

震災で問われた都市のあり方

上述したハードの欠陥は、わが国の都市のもつ悪しき体質と密接に関わっている。第1の耐災性の欠落は、建物の維持保全あるいは都市の新陳代謝のあり方と関わっている。老朽化しないように保全をはかる、次に老朽化すれば補修や取替えにより代謝をはかるという、ストックマネージメントが疎かになっているのである。

建物に耐震性がないとわかっていながら、その補強が思うように進まないのは、補強や補修を誘発する社会的な仕組みが欠けているからである。木造密集地が危険であるとわかっていながら、その改善が遅々として進まないのは、修復や再開発を促進する社会的な仕組みが欠けているからである。

第2の緩和性の欠落は、都市の土地利用の密度あるいは自然環境の保全のあり方と関わっている。市街地の安全のためのゆとりとして機能していた空地や空隙を取りつぶして、土地利用の高度化や市街地の過密化を推し進めてきたことが、ここでは問われている。防災面から利用密度の適正化をはかって、オープンスペースの確保や遮断帯幅員の確保をはかっていく必要がある。

とりわけこの緩和では、自然との環境共生をはかることが欠かせない。緩和装置として、自然を位置づけるのである。自然は、物理的にも心理的にも、被害の緩和や抑制に大きな働きをするからである。ブロック塀の生け垣化から始まって、道路や公園の緑化、さらには開水面のアメニティ化など、自然を都市の中に取り戻す取り組みは、地球環境面からだけでなく都市防災面からも、緊急の課題として位置づけられる。

第3の冗長性の欠落は、都市の機能構造あるいは基盤構造のあり方と関わっている。あまりに一極集中的な都市の構造、単一機能に純化した地域の利用、連携やネットワークを欠く基盤の整備などが、いざというときに補完や代替がきかない持久力や対応力のない都市にしてしまったことを、ここでは反省しなければならない。

※冗長性：Redundancy を日本語に直訳したもの。質の異なるものが互いに必要なところを補うこと。
多重性という言葉にも置き換えられる。

この冗長性の確保では、まず都市基盤のネットワーク構造の整備により、欠落した機能や資源の補完が速やかにはかれるよう、自律分散的なシステムとして都市を編成する必要がある。海と空と陸といった多重のアクセス路を確保することなどが、ここでは求められる。多様な資源の併存と多様な機能の混合をはかって、欠落した機能や資源の代替が速やかにはかれるよう、複線並列的なシステムとして地域を編成する必要がある。井戸などを水道のバックアップとして保全しておくことなどが、ここでは求められる。都市防災面から、機能純化を至上とする土地利用の考え方を脱して、計画的な機能混合を追求していかねばならない。

3. 防災都市実現への道

ところで問題は、防災まちづくりにいかにリアリティを与えるかである。そこで、防災を単なるお題目にしないために、まちづくりの実践の方向についても述べておきたい。

内発的で下からのまちづくり

都市空間は、幹線道路などの骨格の部分と居住空間などの血肉の部分から構成される。お菓子の最中に準（なぞら）えて、前者を「皮の部分」、後者を「餡の部分」と呼ぶことがある。防災面からこの両者を比較してみると、わが国の都市では血肉の部分あるいは餡の部分に問題が集中している。老朽住宅も狭隘（きょうあい）街路も街区の中の餡の部分に存在するからである。

ところで、餡の部分は個人住宅やコミュニティ道路などで構成されており、そこに住む居住者の自覚的で内発的な取り組みがなければ、その防災的改善は難しい。居住者参画の下からのまちづくりが、防災において特に要請されるのはこのためである。わがこととして居住者が防災まちづくりに参画する機運が生まれない限り、身近な都市体質の改善はありえないのである。そのために、居住者に権限と責任をあたえ、その能力と意欲の開発をはかり、協調と連携の関係構築に努める、粘り強い取り組みが求められる。

科学的で合理的なまちづくり

防災まちづくりでは、そこにみられる様々な曖昧さが、それをリアリティのないものにしている。まず目標が曖昧で、どこまで安全な都市にしようとしているのか、そのためにどのような性能を獲得しようとしているのか、目指すべき方向や課題が明らかにならないまま、取りあえずの取り組みになってしまっている。次に目標達成のプログラムが曖昧で、その対策の有効性や実現性を吟味しないままに、お仕着せの事業を言われるままに推進しているに過ぎない。

ここでは、都市計画にも性能設計の手法を積極的に取り入れることを、推奨したい。たとえば、都市大火によって人命が損なわれないという目標を設定するのであれば、それを如何なる方法で達成するのが最適なのか、風土面や生活面さらには景観面や経済面など多面的な視点から比較検討して、みんなが納得する計画案をつくりだすのである。その場合、画一的な基準やメニューを法律等で押しつけることがあってはならない。まちづくりに参画する人々の創意を生かすように、性能設計で選択の幅を広げることが求められる。

この性能設計ということでは、まちづくりに関わる行政担当者を含めた専門家が、都市の安全性能と空間形状との関係について、科学的な知識をもっていることが前提となる。なぜ、4メートルの道路に接道していなければ建物を建てられないかといったことを、科学的に担い手に説得できないようでは、目標の共有による合理的なまちづくりの具体化はおぼつかない。

4. 媒介者としての専門技術者の形成

いままで見てきたように、防災まちづくりでは、第1に担い手の育成とネットワーク、第２に専門的技能の普及と啓発、第３に様々な当事者の利害の調整が欠かせないが、それらを進めて行くうえでは、中間支援者あるいはコーディネーターとしての専門的な技術者の活躍が求められる。防災や都市計画に関するハードな専門知識と、ひとづくりやコミュニティに関するソフトな専門知識をあわせもった、専門技術者の登場が待たれるところである。

コンサルタントは どう関わった

阪神・淡路大震災を経験したまちづくりとプランナー、コンサルタントの関わりということについて小林さんにお話をうかがいました。被災者でもあった小林さんは、神戸のまちづくりにも長い間たずさわってこられ、いろいろな立場から震災、復興とまちづくりを見てこられました。

Profile
小林　郁雄（1944生まれ）
株式会社 コー・プラン代表
まちづくりコンサルタント
阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター上級研究員
大阪大学工学部・大学院工学研究科非常勤講師
兵庫県立淡路景観園芸学校兼任教員

「自分のことは自分で」という世界

震災が襲ってきて、意外にびっくりというようなことはなかったですね。高速道路が倒れたりしましたが、超高層が2、3本折れるかなあと思ったくらいです。目の前に六甲の火事が見えましたが、わりと冷静に、長田区や兵庫区も火事でまあ火の海やろうなと。まさかその下で死んどる人がいるというところまでは、なかなかイメージがいきませんでした。

3日目にバイクで西神戸の方へ行きまして、焼け跡を最初に見てかなりショックを受けました。4日目ぐらいに神戸市に呼ばれて相談されました。神戸市は、震災前十年近くまちづくりの助成やコンサルタントの派遣制度とか、地域型の公営住宅の作り方とか、いろいろきめ細かく地域の人向けの都市計画にシフトしてきていました。しかし、突然の災害に市は、ほとんど手いっぱい、お金もいっぱいで、普通であれば地元の人と話をするのにコンサルタントが派遣されたりするような親切な細かい心遣いはできないだろうなあと思ったんです。だからコンサルタントが地域の人たちと話をするようなことは僕らが自分らでするから、落ち着いたら生活費ぐらいはどないか面倒みることを考えてください、ということで始まりました。みんなそうでしたよね、自分のことは自分でやってくれという世界になっていたわけです。

「シマ割り」から始まった

建設コンサルタントのみなさんも一緒じゃないですか?工事したところとか設計したところとかやっぱり気になりますよね。すぐに飛んで行ったでしょ。大丈夫やったとか壊れたとか、ここは直さなあかんとか。それは町でも一緒です。1日、2日はまあ自分のところを片付けないかんし、隣近所の命を救わないかんとか、飯食えるかどうかとか、みんな3日目ぐらいまでは必死ですからね。3日目ぐらいからそれぞれ自分が担当していた地区へ様子を見に行きました。

当時、交通も止まっていましたし、人を集めることができませんでしたから、私が、リストを作りました。うちの事務所も30年くらい神戸でやっていて、誰がどこで調査したとか、どのまちづくり協議会に誰が行って、途中で変わったとか、だいたい知っていますから。人手が足りないのはわかりきっていましたが、人的資源を均等化せなあかんですから、誰がどこへいけばいいのか、地域の人たちが誰に相談したらいいのかというリストを作ったわけです。それを「シマ割り」といわれたんですけどね。

区画整理に負けないまちづくり ～まちづくり協議会が原動力に

野田北部なんかは、かなり早い時期から話し合っていましたね。震災直後3ヶ月くらいは飯配ったり、ボランティアの面倒見たり、水が出たとか出んとか、仮設が当たるとか撤去せないかんとか、毎日毎日やることがあって、それに追われるわけです。でも、組織のあるところは組織で動きますから、企画部門は次にどうしようかということを考えているわけです。まちづくり協議会とか協議会に近い組織があるところは早い段階から地区計画をどうしようかと話し合っていました。そういう組織のないところは、緊急対応で手一杯になって、話がそこまで行かなかったですね。野田北部は、2日後の1月19日に役員の人選をして、震災復興対策本部の親分を誰にするかなど分担を決めていますね。（「野田北部の記憶」を見ながら）22日から夜警が始まって、26日に今後の課題、地区計画は2月17日ですから1ヵ月後には地区計画のことを話し合っています。

この地区は、協議会の中に燃えてしまった町があり、全くなにも事業のないところと、誘導型の事業をやっているところと、都市計画事業をやるところと3つあったんです。なおかつ隣接地区と一体化してやらないかんから大変もめるわけです。でも、もう1ヶ月目くらいにはそういう話をしているわけで、2ヶ月目に区画整理決定、都市計画事業が決まる意見書が出るころに、もう自分達は区画整理外やけれども区画整理に負けんような町にどうしたらできるかという相談をし始めているわけです。

1周年の記念種まきをする支援ネットワーク「ガレキ隊」

たき火からはじまったまちづくり

考える時間は山ほどあるんです。燃えてしもうて行くところがないから。家が壊れた人は大変なんです。片付けに行かないかん。貯金通帳もあるし、家財道具もみな置いてあるから、取られないように見回りにいかないかん。燃えた人は何にもないから、きれいさっぱりやることない。鉄道も道路も動いてないから会社に行かれへん。学校もあらへんでしょ。避難所におったら三食来るから何をするかというたら、相談するしかない。親子兄弟親戚が亡くなった人は大変です。気力の問題もあるけど、色々処理もせなあかんし、手続きもある。元気な人は手伝いに行ったりしていますけど、夜はやることないでしょ。電気は来てないし、寒いからたき火を囲んでどうしようかと、うちの家はお前といっしょにやろうかとか、3ヶ月間はそんな話がいっぱいありました。仮設ができる頃になるとみんな仮設住宅に行ってしまって相談できなくなる。そこで今度は、限られた人がたき火を囲んで話したことをみんなの同意を求めるためにニュースを出したり、アンケートを作ったりして活動したんです。

仮設コー・プランの仕事場

混乱の中でのコンサルタント ～支援ネットワーク

まちづくりコンサルタントにマネジメント料みたいなものが必要だと思います。区画整理のコンサルタントは、ちゃんと区画整理事業で契約してお金をもらっているけれども、シマ割り（それが支援ネットワークとして現在まで7年間続いているんですが）で配置した中には、報酬なしというのもあります。「区画整理なんて反対や」「わしの娘が死んだところ道にするんか」言うて叫んどるまち協のおっさんと酒飲んで、「まあまあ、そういわずに。ええことあるかもしれんし」とか言って、2ヶ月3ヶ月なだめて、やっと、ちょっと話を聞いてみようかというところまでもっていく。話を聞いてくれるようになったら役所が行けます。役所の後ろで区画整理コンサルタントが換地設計などをしていますが、役所の言葉ですからわかりにくい。それを地元の人に翻訳してあげるとか、地元の人たちがこうしたいということをニュースにまとめて役所に繋いであげるとか、そういう仕事に当時はお金が出るかどうかわからなかったんですよ。

役所の回し者=市民のためのコンサルタント

最初、地域に行くと役所の回し者が来たって、必ずいわれました。そんなときには、役所から金をもらって来ているけど、役所の金は君らや私たちの金、それを有益だと思うから役所はここへ投下して、私たちに行けということで来たんや。役人というのは公僕であって市民のサーバントとして仕えている人たちから頼まれて来ているんやから、役所の回し者というのは、言い換えれば、市民のために来ている

んやと話をします。役所にお金をもらうことについては「お施主様」という観念はないですね。

それでも、そんなお金の出ているところは、多分支援ネットワークの3分の1くらいです。3分の2は全く白地区域[1]で何の金もなしにやってるわけです。100万とか200万とかコンサル派遣料をもらっているところはまだましで、コンサルタントが行かへんようなところ、助成も無いところもあるでしょ。ゼロでも200万でも2000万でもやってることは一緒です。むしろ2000万の方が地元に対する責任は、役所がついてる分、薄い。ゼロのところは、役所がおらへんから地元の人に全責任を持たないかん。そういう意味でも最低経費ぐらい、印刷費などに回すためのお金などがあったら随分良かったなあと思います。

コンサルタントに何ができたか

コンサルタントが震災後2ヶ月目から半年目くらいに、どれだけ一生懸命相談にのってあげたかによって区画整理にしても、共同建替えにしてもドンと違ってきますね。

区画整理はシステムとして複雑で、建前と実際の事業の中身とだいぶ違うでしょ。事業が進んでから話が始まる部分がたくさんあります。最初はやっぱり10%減歩して道路作るんやという話からスタートします。役所はそこしかよう言わへん。でもコンサルはわかっていますから「それはそうやけども、私道全部削ったりせなしゃあない、その分だけ道路になるんやからね。あと公園ができるんやから10%くらいの減歩になるで。その分いっぱい補償金や何や入って、町ができて、借家人の家もできて、ええやないか」という説明をして、実際に自分の懐へ金が来るとわかって、やっと賛成するわけです。そんなことは事業が始まらないとわからない。区画整理には、事業を進めるためのいろいろな手立てがありますが、そこら辺のことなんかは緊急事態には特に話のしようがない。普段は、何の役にも立たんと思っていた「まち協」があって、まち協の役員の人がどうしようかと言っているときに相談にのれたところが良かったんです。

共同化でもね、たとえば2軒くらいでは補助金出えへんが、5軒一緒になってこれくらいの規模になったら高いのも建つし、そこへこういう住宅ができるよと話ができます。利用できる制度もあります。こうなったら補助金も出るし優遇措置もある。だけど工場が入ったらあきませんとか、いろいろな条件、アメと鞭が用意されているのを説明してあげないと分かりませんね。そういうことを半年の間に全部話をつけてしまったところがそれから1年くらいかかって事業化して、2年くらいして建物が建ったという感じですね。

また、共同住宅に住んだことがない人たち、長屋で被災したとか境を接したような戸建に住んでいた人たちも燃えたり壊れたりしています。そういう路地で生活していたようなおばあちゃんたちが、片廊下の鉄扉のマンションで生活をするのはむつかしかろうと。みんながちょっと集まれる場所とか一緒に食事ができる場所を持った住宅を用意しないといけないんじゃないか。それで、コレクティブハウス[2]を造ったらどうかという運動をしたわけです。それも民間が作るのは難しいから、公営住宅に。全部とは言わないけれどもかなりの数造ることを考えたらどうかということで、結局370戸くらい、新設の公営住宅の大体1%くらい作ったんです。

長田区片山町のコレクティブハウス

土ぐもプランナー、町医者的コンサルタント ～めざせ赤ひげ

役所は、年度単位で事業をやる。3年ぐらいで担当が替わる。だからその地域に10年も20年も住んでいる人にしてみれば、いろいろと納得できないですよね。ドライな関係で物事は動いていかないと汚い話も出てくるから、そういうことになっているわけだろうけれど、そうもいかない世界もあるわけです。その地域の人たちの歴史や生活様式をずっと見ていて、知っている人が必要だと思います。町医者のように「風邪ひいたんやから薬飲んどけ」とか、「これは重体だ」というと専門病院へ行けばいい。それはプロとしてわかるわけです。

支援ネットワークの会議風景

そのとき一番大事なのは、そういう仕事は儲かったらあかんみたいなんです。儲かるということになるとみんなが寄って来て、競争の世界になってしまう。そういう町医者的な仕事っていうのは基本的に儲からない。けれども損はしないという、「死なないように生かしておく」程度のお金がずっとあるということが大事なわけです。（伊藤滋先生もそう言うてます。）地域の土ぐもプランナーって言ってるんですけどね、土ぐも的、町医者的コンサルタント。そういうタイプの人たちが地域におるということは非常に大事なことで、ある計画を立てて、この町にとって10年に1回、何か改造するというときにはちゃんと仕事にして、お金をもらう。でも常日頃相談するということぐらいは、まあまあお金がなかったらいいよという世界です。赤ひげのお医者さんみたいなもんです。

Re-investmentという考え方

会社が、本拠地とか支店を出したら、どこか一地区ぐらいは採算を度外視して、面倒見ないかんという義務的な制度はあってもいいと思います。アメリカの銀行の法律で、Comunity Reinvestment Act（地域再投資法－銀行の融資差別禁止）というのがあります。たとえば、神戸の灘区で集めた金をアメリカに投資して、預金者に利息払ったらええやないかというと、そういうことでもないやろうというわけです。地域の人の金を集めるんだったら地域の人の事業に全部とは言わないけども何十%かは義務的に融資してあげなさいという法律です。地域のNPOとか地域のボランティア団体とかそういう、資金繰りが悪いところに多少危険負担はあってもお金を貸してあげなさい、優遇的なことをしなさい、そういうことです。市場主義とは反しますし、グローバル社会とは真っ向から反対しますからなかなか難しいけども、結局そういうことをしないと経済の原則だけでは地域がうまくいかないということがあると思います。本社を置いた地域のまちづくりに儲かった金をいくらかは勤労奉仕しなさいというようなことはあってもいいんじゃないですか。

職業的倫理観の中で～人の難儀で飯を食う

弁護士がそうでしょ。国選なんかほとんど持ち出しに近いようなことでも、職業上の倫理としてやらんといかんと彼らは考えているわけです。誰かが、「人の不幸で飯食う奴はせないかん」と言っていましたね。人の不幸を飯の種にする人は商売繁盛を願ったらいかんのです。坊主も「どんどん死ね」なんていわれへんわけでしょ。医者もやっぱり「どんどん病気になったらええ」と思ったらいかんわけですね。弁護士もそうです。破産したり離婚したりすればどんどん儲かる。だからといって、どんどんなったらええというものでもない。

まちづくりも、震災なんかの場合は全くそうですね。不幸が起こるから仕事があるわけで、そのときに稼ぐことだけで物事を決めたらいかんということです。人様の不幸や難儀を飯の種にしている以上、それなりの職業的倫理観の中で、尽くす部分なしでは商売が成り立たない。そこを建設業もコンサルタント業も忘れたらいかんと思います。

＊　＊　＊

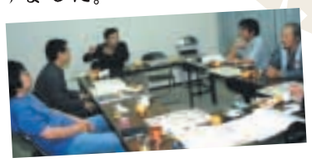
あの震災のとき、たくさんのボランティアが全国から神戸へやってきて、ボランティア元年といわれました。そのとき、すべてを失った人々が、たき火を囲んで自分たちの町の再生に取り組み、たくさんのまちづくりコンサルタントが協力を惜しまず、そんな人々の力が神戸を再生したのです。混乱の中でも自らの仕事に誇りを持って働いた人々、建設コンサルタントも特にインフラ整備などの面でその力を発揮したはずです。まちづくりコンサルタントと建設コンサルタント、働く場所は違っても、同じ思いでまちづくりに取り組むことができたら、すばらしいと思います。

1）白地区域：震災復興に都市計画事業など面的整備事業が計画されていない自立復興区域。
2）コレクティブハウス：異なる世代の他人同士が自立しつつ、互いに家事などを助け合ったりできるように配慮された集合住宅。市営では長田区の真野住宅、県営では長田区の片山住宅などがある。1980年代に北欧で始まった。

座談会

野田北部
震災復興まちづくり

平成7年1月17日午前5時46分、震度7の大地震が兵庫県南部を襲い、神戸市長田区の南部に位置する『野田北部地区』も多大な損害を被りました。そのような混乱状況の中、地元住民、ボランティア、行政、コンサルタント等が力を合わせて「まちづくり」に取り組み、『野田北部地区』は美しいまちなみに生まれ変わりました。



浅山 三郎（昭和12年生）
震災当時野田北部自治連合会・まちづくり協議会会長、現まち協会長。人々の心をつかみ、慕われる野田北部のカリスマ。

河合 節二（昭和36年生）
野田北部まちづくり協議会事業推進本部長。あの日、引渡しを受けたばかりのマンションに泊まっていたのが運の尽き。あの惨状を見てしまい、そのまま27歳の時以来の野田北部住民となる。

森崎 輝行（昭和23年生）
建築家。平成2年神戸いきいき下町促進協議会初代運営委員長。同時に鷹取商店街の活性化に取り組む。震災直後に浅山会長にバッタリ出会ってしまい、まちづくりに引き込まれる。

平岩 正行（昭和50年生）
神戸生まれだが、震災当時は早稲田大学1回生。平成9年、野田北部にたまたま挨拶に来て、「まちづくり」と出会い、卒論のテーマとする。人生の針路が大きく変わり、現在神戸市住宅局野田北部担当。

狩野 裕行（昭和27年生）
震災当時住宅供給公社で分譲マンションの復興を、その後神戸市住環境整備課、長田担当となり、5年間野田北部のまちづくりに取り組む。現在建築技術部で環境に優しい住まい作りに取り組んでいる。

司会　阪神・淡路大震災から8年目を迎えようとしています。ここ長田区野田北部は、いち早く復興まちづくりに取り組まれ、「野田北部まちづくり協議会」は全国的に有名になりましたが、みなさまのご苦労はさぞやと思います。われわれ建設コンサルタントとしては、みなさまの活動にたくさん学ぶべき点があろうかと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

ワゴン車が対策本部

浅山　あの朝、妻の叫び声で飛び起きて、慌てて布団を頭からかぶせ、娘の無事を確認して、まだ揺れる階段にしがみつきながら飛び出しました。その時は自分の身の危険なんていうことは考えていませんでした。当日夕方、森崎先生にバッタリ会ってるんですね。まだ燃えてる時、まだみんなが人を助けたり、パニックに陥っている時にです。その後、駅前に行きましたら、駅のコンコースにワゴン車を止めて、「野田北部震災復興対策本部」とダンボールにマジックで書かれた看板を見つけました。「会長!ここに対策本部を置く」。車の中にですよ。若手がすぐに動き出してくれていました。

司会　そうですか、そんなに早く対策本部を立ち上げていたんですか。

浅山　自由に動けた人は自分の家族の安否を確認した上で、家族に誰かケガがあっても他の家族に見てもらって役員はすぐ動いていましたね。2日後には河合君が3枚のホワイトボードを駅前に持ってきてくれました。これが伝言板です。あっという間にびっしり「家族全員無事」「誰がどこにおる」と書いたりしていました。あの状況では、動ける者がみんなのために考え、行動したんですな。

震災直後の大国公園

顔がわかる コミュニティがあった

司会　避難訓練とかを特別やっていたということでもないですよね。

浅山　特に救助活動などはやったことはないです。

河合　何より、どこに誰が住んでいるか、相手の顔がわかっているわけです。知っている人を見かけないとなったら、埋まってるんちゃうかと。最初に動けたのは、近所をそれなりに知っていたことが大きかったと思います。

浅山　長く住んでいる住民が多かったということもあります。中には助けてくれといっても放っておかれたということもあるようですが、われわれとしては、まだ息のある人から、亡くなっている人はちょっと待ってくれといわざるを得ませんでした。まだ生きている人から先に引っ張り出すということでした。

森崎　震災の時、それができた地区とできていない地区があるんです。この地区は8割方の家は壊滅状態でした。そんな中でも、約25世帯に1人の死亡者数で済んだんですよ。同じような状況の他の地区と比べると犠牲者の数は最小限にとどめられたといっていいと思います。コミュニティが機能していたことの証しだと思います。

河合　ガキの頃からよく怒られたおばちゃんね、そのおばちゃんの遺体を出すのが一番つらかった。子どもの時は、煩わしかった。近所のおばちゃんに見張られてる、悪いことしたらすぐバレるし怒られるでしょ。すぐ親の耳に入ったり、それがとってもいやでしたね。今でも煩わしいと思っている人は多いと思います。でも、本当は子どもを守ってくれていたんです。それがよくわかりました。

夜警が始まって、ダチづくり

河合　焼けたところは焼失していますが、倒壊家屋のところは、家財から何から残ったまんまです。当然潰れた木造家屋ですから、火をつけられたらまた燃えてしまいます。それで、誰が言い出したのか、夜警をすることになりました。

浅山　避難先から帰ってみるとタンスが荒らされている、ということがありましてね。何とかして欲しい、物を出したら置くところがない、解体がちゃんとできるまで何とかわれわれでやるべきだということになったわけです。そしたら、すぐにやりましょうと。それから90日間、若い人たちのエネルギーってすごいですね。

河合　普通だったらシフトを組んだりしますが、そんなことをしなくても20人くらいは必ず集まって、酒かっくらって、毎晩毎晩やってました。そんな中から「まちづくりや！ダチづくりや！」って始まったような気がします。

浅山　当時、警察に助けてもらおうという気持ちはなかったですね。ただ、2日目、3日目は人間の手でどうしようもないこと、つぶされた人たちの救出にレスキュー隊を要請に長田消防署へ行きました。ちょうどそこへ八尾市のレスキュー隊が到着したという情報が入りまして、「すぐ行け！」っていうことになって、運がよかったです。それでも2日はかかりました。とにかく3遺体と生きているおばあちゃんを1人救出できました。

河合　ファイバースコープで中を覗いて、風船を膨らまして梁を持ち上げて、その間に引っ張り出すっていうやり方でしたね。車のジャッキは地面の方にめりこんで役に立ちませんでした。消防団もずいぶんがんばったけど、やっぱり、専門家でないとできないわ。

3日間は自分たちで生き延びる

司会　警察や自衛隊、行政はその時どうしていたのですか?

森崎　これは専門家の中で一致している見解ですが、阪神・淡路大震災級の災害になると、3日間は行政は機能しない。

浅山　2日目に長田区役所に行ってきたんですが、職員はいっぱい役所の中にいました。ところがそこへ辿り着くまでが大変です。避難所になっていましたから足の踏み場もない状態でした。

震災直後の鷹取商店街

森崎　自衛隊にしても警察にしても危機管理がきっちりできていないと命令系統が出せない。役所も被災民に対して弁当配りの方が大変なんです。目の前のことに全員配置されてしまうから、3日間は自主防衛するしかないです。

浅山　長田区役所でまちづくり推進課の課長と話して、対策本部をここに構えて、私も頑張っているからとハッパかけてきました。それで、翌19日には救援物資が本部に届くようになって助かりました。

狩野　動けないというのはね、絶対的なマンパワーが足りなかったということだと思います。もう一つは、動いてはいけない部署があります。震災の時に、困っている人がいるのに手を出さないで調べている人がおる、とよく非難されましたが、あれは必要です。調査する人が現地に入ってボランティアみたいなことをしていたら計画ができないです。

震災をテコにまちづくり

司会　具体的なまちづくりはいつ頃から話し合われたんですか?

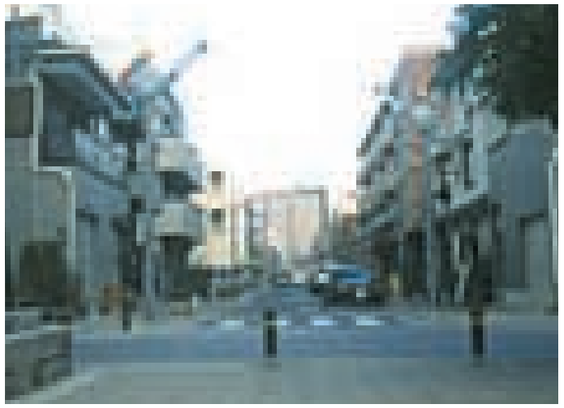
浅山　震災以前から三世代同居できる町をつくろうと活動していました。1ヶ月に1回か2回ぐらいは森崎先生たちが若い人たちと話し合っていました。震災の翌日、ある役員とニコっと笑っている写真がありますが、そのとき「これでおもいっきりやれるぞ」「おもいっきりやれ!」と言ったのを覚えています。

河合　この協議会の中に区画整理エリアがありまして、そこには公園ができる、道路は広くなる、でも他のエリアは元と同じような細い路地で防災上問題のあるような町になっていいんだろうかと。もともと木造長屋が多かった地域で、既存不適格な建物ばかりでしたから。放っておいたらお金があるところから建ってしまうので、できるだけ早く取り組む必要がありました。

狩野　当時は国も結構柔軟に取り組んでくれました。問題は住民ですね。行政主導でもいいですが、どれだけ住民が望んでいるか、まとまるかが問題です。

河合　狭小宅地が多い地区ですから、法律を守っていたら、元の床面積は取れないっていう問題があります。それで、地区計画を入れて、みんながルールを決めてやることによって、建ぺイ率とか容積率の緩和を受けられるようにしていこう。とりあえず3階を建てれば元の床面積を確保できるやろうということで区画整理の問題と平行して始まりました。

浅山　その時に活躍してくれたのが大学のボランティアです。初期のボランティアは避難所に散らばった住民に一人一人、意向調査とか、アンケートをとって補足して、連絡とって、大変でした。



現在の鷹取商店街

復興一番乗りをめざす!

平岩　その頃、僕の先輩たちが頑張ってくれたわけです。当時は、「建築基準法とは?」「2項道路の中心後退はいつから決まったのか?」「建ぺい率や容積率って何?」「地区計画は誰が決めるもの?」と様々な勉強会や相談会がもたれていた時期だそうです。その数や70回以上、それらの会議録やニュースの発行をお手伝いしたそうです。

河合　初めて聞く日本語ばかりですから、それは大変でした。一軒一軒配って歩いても、説明会に人は集まらない。潰れた家の多いところは集まりがいいんですが、残っているところは集まってこないんです。議論白熱、口角泡を飛ばすというようなこともたびたびでした。行政の人にもですが、役員も異議を唱える人たちに罵声を浴びせられたりもしました。

森崎　この地区で忘れてならないのは女性の存在ですが、あまりの悔しさに会長の奥さんが涙を流されたことがありました。よかれと思って、身を粉にして取り組んでおられることを一番よくご存知でしたからね。

河合　その時みんな思ったんです「何が何でも復興一番乗りをめざすぞ」と。

司会　具体的には地区計画というのはどのようなものですか?

狩野　平成7年に創設された「街並み誘導型地区計画」を平成8年7月に要望しました。

全国初の制定は平成8年11月です。法制度を緩和してもらって、5m幅の空間に面して3階建ての家が建ち並ぶまちなみをイメージしています。同時に、道路中心線を決めて壁面線をそろえます。「街なみ環境整備事業」という補助事業を導入して、細街路の美装化と植栽や住宅の景観工事に助成ができるようになりました。私道を公共の全額負担で整備しているんです。私もずいぶんこき使われました。

河合　とにかく住民合意の形成が一番重要でした。国もお金を出す、行政も協力する、でも、住民がそんなんいらんといったら、できない話です。住民の全員合意という呪縛に悩まされたこともありました。

司会　住民の合意形成にはどれくらいかかりましたか?

河合　2年かかりました。

森崎　野田北部では合意形成はすごく早いですね。合意形成というのは、まちづくり協議会がどのように支持されているか、しっかりしているかによります。野田北部は誇ってもいい状況でした。あのような緊迫感とあのようなコミュニティの一体感がなければできなかったと思います。

狩野　地区計画を自力で立てることができたのは野田北部だけです。

チャーミングなまちづくり協議会

狩野　行政もコンサルもそうですが、あらゆるところへは行けません。たまたま長田区役所に地区計画の分かる人間がいて、そういう発想ができた。住民からも要望がある。次に住民をまとめる。これはまちづくり協議会だけではできません。ボランティアパワーが来て、会長がこれを取り込んで動かす。また専門家が研究の成果を持ってきて、住民の相談に乗る。総合的な力が働いたんです。

森崎　偶然というよりは、むしろ積み重なってきた結果じゃないかな。それをさせた背景には、「来る人拒まず」の精神と心あるものすべてをのみ込む会長の人柄にあると思います。まちづくり協議会はそれぞれ顔が違うんですが、ここだけえらいチャーミングだったりするんです。

河合　君がきた時の話をしろよ、もしここへ来なかったらもっといい人生が待っていたかもわからんよなあ。(笑)

平岩　僕がこちらにお邪魔したのは、平成9年の春です。春休みに実家へ帰るなら野田北部へ行って来いと先輩にいわれてやってきました。ところが、アポも取っていないし、どんな人がいるかもわからんし、事務所に上がる階段で何度も立ち止まりました。思い切って挨拶だけでもしようと中へ入りました。ちょうど浅山会長と事務の人がいて「まあ、座れ」とコーヒーを出していただいて、とてもはじめてお会いした感じじゃなかったです。

パックマンこと塚原氏、笑いで復興を応援

森崎　ここはね、みんな吸収されちゃうんですよ。当時は浅山さんも今の100倍くらいカリスマ性がありましてね。

平岩　まちづくりやってる人って、おじいちゃんで、全然自分から動かない人ばっかりかなって、イメージしてましたから、ここは活気

にあふれていて圧倒されました。こういう人たちがまちづくりの最前線でやっているんやと肌で感じて衝撃的でした。それで、卒論のテーマにさせていただき、4回生の時は1ヶ月くらい泊めてもらいました。今も、この地区担当で勉強させてもらっています。

コミュニティ道路と協調化住宅

コンサルタントは「七人の侍」

司会　まちづくりというのは野田北部のような形で進むべきなのでしょうか?

狩野　他では絶対にできないと思います。行政が先にやって、そのうち住民もその気になるんちゃうかというような地区もあります。

森崎　まち協の顔が違えば、動きも違うわけで、その手法は結構使えるかなっというくらいの話ですね。ただ、言えるとしたら、ここのように全体的なことを考える人が必要だということです。個人的な考えから発想するのは住民です。行政とまち協は全体論に専従するべきだと思います。

司会　コンサルタントはどのような役割だとお考えですか?

森崎　黒澤映画で言えばね、まちづくりコンサルタントは「七人の侍」みたいなものだと思います。私たちコンサルタントは行政とも住民とも違う立場にあるわけです。「七人の侍」ではおむすびをもらうために住民に雇われて、野武士が攻めて来たらやっつけてくれと頼まれるんです。最後はどうなったかというと、侍は淋しそうに去っていきます。住民だけが勝つんです。その辺のことがわかってコンサルティングしなければいけないと思います。自分が住民になったり、悪代官になったりしたらあかんのです。

まちづくりは建築に似ています。建築はプロセスです。住宅1軒だったら、模型を作って何度もつぶしてどう作っていくかプロセスを楽しみます。まちづくりはロングスパンで考えたプロセスです。街並み誘導型の面白いところは結果が見えないところです。自分には予測できない、その変化をどう掴んでいくか、思想がないと対応できません。

まちづくりとは?

浅山　若い人たちの発想っていうのはすばらしいものがあります。これをいかに生かすかというのが年寄りの仕事だと思っています。まちづくりは人づくりやと、そういうつもりで働いています。

平岩　僕が感じてきたのは、まちづくりに関わっている人を見ると、まちの歴史とかを地域の人よりよく知っていて、まちへの思いっていうのを感じます。地域の人はもちろん、行政の人にも野田北部に対する思いっていうのがある。みんなそれぞれに熱い思いがあって、それを実行しようとする意識の高い人たちがまちに関わっていけるし、まちづくりを持続できるんだと感じています。

震災被害の状況

森崎　会長が人づくりって言われましたね。つまりそれは長いことかかるという覚悟を持っているということです。まちづくりは「づくり」っていいますね。つまり継続中だということです。まち「結果」ではない。建物ではないんです。「町をつくる」のか、「まちづくり」をしているのか全然違います。

河合　これからまだまだ取り組まなければならないこともあるし、僕の子や孫の時代に三世代が同居できる町ができるのかどうか、まだ10年、いや50年経たないとわからないのかもしれません。ある意味、無間地獄ですけどね。

浅山　たとえ無間地獄であっても、新しいものを、いいものを常に見ようとする、勉強する意欲だけはどこにも負けんよ。今では、廃墟だったところに建物が建って、美しいまちなみができ、人々が帰ってきました。共同化住宅に他の地区から移ってきた人たちもいて、うれしいことに子どもが増えています。木の名前をつけた細街路もできました。野田北部のまちづくりはこれからです。

司会　最後に、更なる決意表明をいただきました。ありがとうございました。

生まれ変わった野田北部

1 細街路の美装化

2 大国公園

5 細街路の美装化

4 共同化住宅

3 海運双子池公園

＊ガレキに花を咲かせましょう＊

1995年春、「ガレキが撤去された空き地に花を咲かせませんか」という呼びかけが発せられました。仕掛人は天川佳美（あまかわ よしみ）さん（阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク）。「たくさんの命や財産、想い出を呑み込んでしまった場所を耕すことは悲しみをもっと大きくさせるのではないかと心苦しい思いでしたが、『泣いてばかりおられへん』『咲くのが楽しみやね』という住民の声に逆に励まされました。」

＊　＊　＊　＊　＊

長田区野田北部地区では区画整理予定線をヒマワリで描こうと夢のような発案。避難先から帰ってきたら、家族団欒の居間、台所などがわかるように基礎を残してガレキを撤去し、道だけに種を蒔きました。「この道はいつか往く道」明日への希望の道、真夏の暑い日差しの中、ヒマワリは見事に咲きました。11月、花は枯れましたが、その後には住民自らが取り組む「まちづくり」が誕生していました。

その時私たち建設コンサルタントは

私たち建設コンサルタントは、社会基盤整備のための計画・測量・調査・設計を主な業務としています。阪神・淡路大震災では、多くの建物や道路が倒壊したり、電気・ガス・水道などの設備が破壊され、多くのみなさんがつらい生活を強いられました。私たち建設コンサルタントは、全国からたくさんの仲間を結集してその復旧に努めました。

Q1 震災の時、建設コンサルタントの人たちはどんな仕事をしたのですか？

A 高速道路が落ちたり、鉄道の線路が落ちたり、道路がめちゃめちゃになっていたり、港で岸壁が沈下したり、さまざまな社会基盤が被害に遭いました。私たち建設コンサルタントは公共事業に携わる者として、いち早くそれらの復旧に努めました。全国の支社から技術者たちが駆けつけ、私たちの会員会社では地震発生後2ヶ月間に損傷点検や調査で約70社、延べ4万人強の人たちが活動しました。

損傷点検調査のようす

Q2 復旧活動ではどのようなことをされたのですか？

A まず、調査です。被害の状況をきちんと調査することが大切でした。当日の午後には担当部局から調査依頼があったところもありました。しかし、交通が寸断されていたので、現地へ入ることすら難しかったのです。舞州からヘリコプターを飛ばしたり、船を利用した人たちもいました。朝早く家を出て神戸に入り、現地では徒歩か自転車で移動、夜は県庁で会議をして、夜中近くに家にたどり着き、また朝早く出るという日が続いた仲間もたくさんいました。中には会社に布団を持ち込んで寝起きした人たちもいました。今思うとよくできたと思いますが、何しろ一日でも早い復旧をという思いと、被災者の方たちの気持ちを考えると、いても立ってもいられなかったのです。

地盤沈下調査

補強による仮復旧

道路沿いの石積擁壁を撤去後に現物利用

復旧後

Q3 震災の経験はどういかされているのでしょうか？

A 私たちは、社会基盤の整備をするということを普段は担っています。今回の壊れるという経験で得た技術的なものは後輩に伝えていきたいと思っています。また、データの整理や保管の大切さが身にしみてわかりましたので、それらの方法についてもいろいろな工夫がされています。

地震に耐える道路や港を造ることも大切ですが、復旧対策ができるだけ容易にできるような構造を考えていくことも重要だと思います。同じように、防災ということについても、二重三重に、あるいは平常時と非常時を同時に備えるというような考え方が必要だと感じました。道路、鉄道、河川、ダム、山地、港湾、上・下水道、橋梁などそれぞれの部門で、この経験は生かされています。

さらに、調査のために観測計器を設置していたら、不安を感じておられた住民の方が50人ほど集まって来られたので、臨時に説明会を開いたケースもありました。今後は住民のみなさんに安心感を与えるということも私たちコンサルタントの仕事として大切なことだと感じています。

RC巻き立て+鋼板巻き立てを復旧工法としている

親水性のある石積みの傾斜堤に構造を変更

Q4 南海地震が起こるといわれていますが、大丈夫でしょうか？

A 南海地震については、50年以内に80%の確率で起こるといわれています。南海地震が起これば、大きな津波の危険性があります。そこで、海岸護岸を高くしたり、川の堤防を強化したり、いろいろな対策がとられています。それらの対策にも震災の経験が生かされています。震災から8年目になりますが、震災の記憶を風化させることなく、防災意識を新たにしたいものです。

35周年記念誌より編纂

先人が守り甦った ニテコ池

株式会社ニュージェック　井上 恵太

西宮市奥畑にあるニテコ池は、上池、中池、下池と3つの堰堤（えんてい）に区切られた池である。震災の時、上池、中池の堰堤が崩壊して、約50,000m³の泥水（10tトラック約5000台分）が下池に向かってドッと流れ出した。当時たまたま下池には水がなかったので、堤に亀裂ができたりしたものの何とか壊滅的な破壊を免れ、下流の人家への被害を防ぐことができた。

この池の修復工事に関わった当社河川海岸部の道輪（どうわ）は、「江戸時代に作られ、大正末期からは水道の水源として利用され、現在まで灌漑用水池として使われてきた池が、無残な姿になっているのを見て、これまで携わってきた人々のことなどが思われて悲しかったです。」また、「震災直後は西宮北口から約1時間かけて歩いて通いました。被災者の方が空き地でたき火しておられる横を毎日毎日通るんですから、つらかったですね。寒い時でしたから、カイロを配って歩いたりもしました。」と当時を振り返る。

何しろ江戸時代に作られた堰堤なので、図面などはなく、ボーリングしてどういう土がここにあるかを調べ、どういう土を持ってきて造ったら良いか、いちから検討した。ところが周辺にはなかなか見つからない。「そういう意味でも先人たちはすごいと思います。下池には、ええ土が使われていました。形にしても、失敗を重ねながら、いろいろな経験に基づいて造ってきているんだと思います。」と、石井ダム室室長。

当時、川西で土砂崩れにあった土が良い土だったのでそれを使おうかという話があったそうだ。しかし、「下に人が埋まっているのに上の土をこの池に使うのは忍びない。やめましょう」ということになり、結局、広島県のある島から船で運んできたという。握れば土がわかるという道輪は、土にこだわった。

土が決まったら、設計、さらに工法を決めて工事に入る。修復している途中に洪水などが起こって潰れてしまわないように、矢板（やいた）（鉄の壁）を打って、洪水を止めつつ、中の土を取って新たに土を入れるという工法を取った。

ここは、満池谷の桜といわれて、花のころは市民の憩いの場で、周辺は散歩やジョギングの場所でもあった。そこで、水と緑が調和した豊かな環境を残すように配慮し、壊れた取水塔も復活した。ぜひ桜のころに訪れたい。

『阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター』を訪ねて

自称『ドラえもん』。四次元
ポケットを隠し持つ（?）
砂場 編集委員

余震

「亥年は平和な年になる」・・・誰かが言ったのか、それともニュースか新聞からの情報だったろうか。今ではもうその記憶さえ定かではない。ただ一つ確かに言えるのは、例え今までがそうであったとしても、平成7年の亥年にその「定説」は大きく覆されてしまった、ということである。それというのも、年が明けてすぐ阪神・淡路大震災が、またその二ヶ月後には『地下鉄サリン事件』という日本中を震撼させる未曾有の大事件が相次いで起こったからに他ならない。

平和であるどころか、我々の心に重く大きな負の記憶を残す特別な年となったわけである。

震央

あれから8年、機会を得て平成14年4月にオープンした『人と防災未来センター』（1期施設「防災未来館」）を訪ねることになった。

阪神電鉄岩屋駅で下車し、六甲山脈を右手に望みながら広々と舗装された道を歩く。緑に溢れ、整然と区画された美しい街並み。そこに震災の傷跡をみつけようとしたが容易ではなかった。それは多分喜ぶべきことなのだろう。

センターの受付を通りエレベーターで4階へ。「1.17シアター」で約7分の映像を観る。地方からの見学者と思われる年輩の数人と一緒になった。震災体験者のわたしにとって、風化させるにはまだ早い映像が連続して流れる。それでいて何処か異国で起こった遠い出来事のようにも感じ複雑だ。

件（くだん）の見学者たちは口々に「凄い迫力。怖いね」を連発している。果たして現実はこんなものだっただろうか。人はかつて感じた恐怖や哀しみを、いつまでも同じレベルでは覚えていない。だからこそ生きていけるのである。わたしも当時の記憶を封印してしまった一人なのかもしれない。

映像を観終えて「震災直後のまち」のジオラマ模型の中を行く。歩き始めてすぐ、同行の友人が表情を曇らせた。かつてロンドンで見た蝋人形館での感覚と似ていると言うのである。奇しくもそれはわたしとて同じで、残念だがこの街の再現には疑問が残った。

次は、「大震災ホール」という、震災から復旧・復興していくまちの姿が13分間のドキュメンタリー映像で流れるコーナーである。淡々とした女性の語りが却って胸を打つ。15才の少女の視点を通して表現されたフィクションのビジュアルは、永い歳月を突如としてその時に引きずり戻してしまう。

3階のフロアに降りると、黄緑のジャケットを着たボランティアの方たちが気さくに声を掛けてくださる。何処から来られました？そうですか、体験者ですか。それは大変でしたね。・・・どうやらそういうご当人も当事者らしい。頭の下がる思いで展示されている写真等の説明を受けた。ポキンと折れたゴルフクラブ、溶けたお金が張り付いた貯金箱、5時46分で止まったままの歪んだ時計・・・鼻の奥がつんとなる。言葉が出ない。

1.17シアター

震災直後のまち

大震災ホール

時間の関係でバーコード・ナビゲーター（展示物の解説やそれにまつわる体験談等を表示する携帯端末）での説明を受けることが出来なかったのは残念だった。

さて、2階は防災のコーナーである。ここでは、災害や防災に関する最先端の情報が提供される。インターネットによる防災情報サイトの検索、実験やゲームで体験する「防災ワークショップ」のコーナー、そして震災に関する図書の閲覧が出来る資料室もある。

地震大国日本に住んでいる限り、防災のあり方を考え伝え活かすことこそが今後の大きな課題なのだと改めて思いながらフロアを後にした。

最後に1階の「1.17ショップ」で、記念にと思いつき友人への携帯灰皿を購入した。「1.17」のロゴが印象的である。ほかにもTシャツやバッジなどが売られていた。

なお、本年4月には、いのちの尊さと共に生きることの素晴らしさを体験できる2期施設「人未来館」がオープンする予定だということである。

震域

そういえば、震災から三ヶ月後にわたしは初めての海外旅行を体験した。

行き先は香港。震災の記憶がまだ生々しく残っていたこともあってか、建設中のビルの何れもが竹の足場で支えられているのには恐怖にも似た驚きを感じたものだ。

防災ワークショップ

震災を語り継ぐコーナー

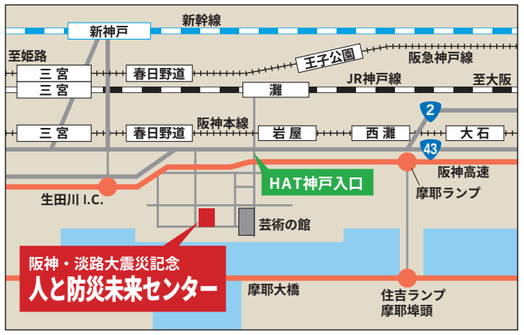
高くそびえ立つビル群を見上げながら「大きな地震が起きたらひとたまりもないよね」とつぶやいたわたしに、ガイドの女性は「香港には地震ありません」と言って笑った。

「関西に大きな地震は起きない」あれは何かの聞き違いだったのだろうか。

阪神・淡路大震災記念　人と防災未来センターとは・・・

このセンターは、阪神・淡路大震災の経験と教訓を後世に継承し、国内外の災害による被害の軽減に貢献するための施設です。センターは次のような目的で運営されています。

- 広域支援：大規模災害発生時に専門家を迅速に被災地に派遣し、助言等の支援を行います。
- 人材育成：専任研究員の育成や、災害対策専門研修を行います。
- 調査研究：実戦面を重視した総合的な調査研究を行い、災害対策の推進、被害の軽減に役立てます。
- 交流・ネットワーク：防災に関する人と情報が交流するシステムを構築し、国内外の防災関係機関との交流・ネットワークづくりの拠点となります。
- 資料収集・保存：阪神・淡路大震災に関する書籍や実物資料を収集・保存します。
  資料室（2F）では、資料等を閲覧することができます。



150年続いた なにわの宮

株式会社 修成建設コンサルタント
取締役相談役　大家 康照

昔、大阪に天皇ご一家の居所がありました。大阪市営地下鉄の谷町四丁目駅から建設コンサルタンツ協会近畿支部に向かって左側に約9万m²の空き地があり、国の史跡指定地になっています。そこが天皇の居られた難波宮（なにわのみや）跡です。

難波宮は日本書紀を初めとして多くの文献にでていますが、大阪市立大学の山根徳太郎教授らの研究によって昭和29年から発掘調査が進み、ほぼ同じ場所に前期と後期の二度にわたって宮殿が造られていたことが明らかになりました。

前期難波宮は大阪市中央区法円坂にあり、難波長柄豊碕宮（なにわながらとよさきのみや）と呼ばれ、大化の改新（西暦645年）直後、孝徳天皇の御代に造られたものです。大極殿、楼閣、朝堂院、回廊、門があり立派なものでした。それ以前の飛鳥時代には、明日香地域内で都を転々と移していたのを、遠く離れた難波（なにわ）に遷都して人心を一新し、天皇中心の新しい政治を目指したのです。難波津は、当時我が国きっての国際港であり、交通･交易の要でした。その後、首都を近江大津京（667）に移しましたが、遷都の後も外国からの使者接待などのために宮殿は手入れして維持されたようです。この前期難波宮は、686年天武天皇の御代に焼失してしまいました。

難波宮跡地の史跡公園

その後時代は移り、744年聖武天皇の御代に再び難波に都を移

されました。これが後期難波宮です。前期の宮殿が、日本古来の掘立柱形式で屋根に瓦を用いない様式であるのに対し、後期難波宮は基礎石を用い屋根瓦を葺いた大陸様式となり、前期よりやや小規模ながら立派な宮殿でした。

後期難波宮が首都であったのはわずか2年ほどでしたが、その後も784年桓武天皇の御代に長岡京に都が移るまで、難波宮は副首都であり続けました。

大化の改新後、150年間、難波はある時は首都として、またある時は副都として、交易･産業を興し、ずっとこれらの文化を支えてきたのです。

現在、難波宮の北隣を阪神高速13号東大阪線が通っています。将来、宮跡を本格的に調査する時のために、宮跡地区間は高架でなく現地盤上に砂の層を作り舗装をしてあります。

広々とした宮殿跡に立つと、いにしえの難波びとの思いが伝わってくるようです。現在、難波宮跡地は史跡公園として整備が進められていますが、まだ行かれたことのない人は一度足を運ばれることをお勧めします。難波の先人たちが我々に明日に向かう活力を与えてくれることでしょう。

万葉ロマンが息づく 琵琶湖周辺の原風景

株式会社 新 洲
都市設計室　井上　均

滋賀は、四囲を比良・比叡・伊吹・鈴鹿の山々に囲まれ、中央に麗わしの琵琶湖をもち、近畿の東玄関として淡海の国、近江といわれてきた豊かな歴史のふるさとである。

縄文・弥生のころから、すでに人びとが住み、渡来の高い文化をもった生活をおこなっていた。古代に最澄が開いた比叡山は日本仏教の母ともいうべく、幾多の高僧を輩出している。中世の武将は表舞台に登場する際に近江での活躍が必ずあった。近代では、交通の要衝にあたるため、近江商人が全国各地へ行商にでて、現在の経済社会の基盤を築いた。また、数多くの社会貢献も同時におこなった。このように、近江は日本史の展開のなかで、各時代を通じて再三に渡り重要な表舞台に登場し、常に貴重なカギとなった地域である。

滋賀県は、これらの魅力的な歴史文化資源を「近江歴史回廊」としてテーマや時代、地域ごとに10の探訪ルートを設定している。

その一つに「近江万葉の道」がある。奈良時代、四百余年間に及ぶ約四千五百首の歌を集めて編まれた『万葉集』には、古代近江の地が詠み込まれた歌が数多くある。特に、蒲生野の地（現在の竜王町、蒲生町、安土町、日野町、八日市の一帯）で詠んだという額田王や大海人皇子の相聞歌はあまりにも有名である。歌は、「茜さす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖ふる」（額田王）「紫草のにほへる妹を憎くあらば人妻故にわれ恋ひめやも」（大海人皇子）という相聞歌である。額田王は大海人皇子（のちの天武天皇）と愛し合ったが、のち彼の実の兄である天智天皇の寵愛を受けた。この歌は、蒲生野遊猟のときに交わされたといわれるもので、人目もはばからずに袖を振って見せる大海人を額田王が咎めるのに対し、大海人が大胆にも人妻である額田王への激しい恋情を歌い返したのである。額田王はもと大海人の妃であったのだが、この頃には天智天皇の後宮に入っており、この三者には極めて複雑な事情があった。それを背景に描かれた相聞歌が万葉ロマン読者の心を打ち、万葉愛好者を育てるきっかけとなったといわれている。

現在の蒲生野を訪ねてみると、人々は「何もない農村」という。しかし、近江商人を輩出したところらしくどの家も柱や梁を紅がら色に塗り、庭は手入れが行き届き、また、どこか瀟洒な感じのする下見張りの土蔵が印象的である。新築の家もこのような伝統的な様式を継承している。個性が失われつつある中で、伝統的な文化が根付いている。おそらく、この地域の人たちは暮らし方に関して時代に流されない定見や自己主張を持っているのだろう。

豊かな人間性と素直な感動を表した万葉の歌の跡を訪ねて、古代人の心象に触れ、また、古代より脈々と続く琵琶湖近辺の原風景を存分に味わって頂きたく紹介するものです。

レリーフ

歌碑

(社)建設コンサルタンツ協会近畿支部　会員名簿

◇◇ 福井県 ◇◇

京福コンサルタント（株）
☎0770-56-2345

（株）サンワコン
☎0776-36-2790

ジビル調査設計（株）
☎0776-23-7155

（株）帝国コンサルタント
☎0778-24-0001

◇◇ 滋賀県 ◇◇

（株）石居設計
☎0749-26-5688

キタイ設計（株）
☎0748-46-2336

近畿設計測量（株）
☎077-522-1884

（株）新洲
☎077-552-2094

正和設計（株）
☎077-522-3124

（株）日測
☎0749-63-2096

◇◇ 京都府 ◇◇

（株）エース
☎075-351-6878

（株）キクチコンサルタント
☎075-462-5544

（株）キンキ地質センター
☎075-611-5281

内外エンジニアリング（株）
☎075-933-5111

（株）吹上技研コンサルタント
☎075-332-6111

牧草コンサルタンツ（株）
☎075-611-5211

◇◇ 大阪府 ◇◇

（株）アーバン・エース
☎06-6359-2752

（株）アール・アンド・ディーエンジニアズ
関西支社　☎06-6578-2951

（株）アイ・エヌ・エー 関西支店
☎06-6885-6665

（株）アサダ
☎06-6977-0055

朝日航洋（株） 西日本空情支社
☎06-6338-3321

朝日調査設計（株）
☎06-6357-5270

アジア航測（株）大阪支店
☎06-6338-3751

（株）アスコ
☎06-6444-1121

イズミ建設コンサルタント（株）大阪支社
☎06-6444-2331

（株）ウエスコ 大阪支社
☎06-6943-1486

（株）エイトコンサルタント 大阪支社
☎06-6397-3888

（株）エミック 近畿事務所
☎06-6344-2720

応用地質（株）関西支社
☎06-6885-6357

（株）オオバ 大阪支店
☎06-6943-5161

（株）オリエンタルコンサルタンツ
関西支社　☎06-6350-4371

開発エンジニアリング（株） 大阪支店
☎06-6201-5612

開発コンサルタント（株） 大阪支店
☎06-6352-2813

（株）片平エンジニアリング 大阪支店
☎06-4807-1857

川崎地質（株）西日本支社
☎06-6649-2215

（株）かんこう
☎06-6910-3201

基礎地盤コンサルタンツ（株）関西支社
☎06-6536-1591

（株）橋梁コンサルタント 大阪支社
☎06-6245-7277

（株）協和コンサルタンツ 関西事業部
☎06-6367-1635

協和設計（株）
☎0726-27-9351

近畿技術コンサルタンツ（株）
☎06-6946-5771

（株）近畿日本コンサルタント
☎06-6763-7131

（株）近代設計 大阪支社
☎06-6228-3222

（株）ケーエーケー技術研究所
☎06-6942-6690

（株）ケーシック
☎072-846-4641

ケイエムエンジニアリング（株）大阪支店
☎06-6242-8074

（株）建設企画コンサルタント
☎06-6441-4613

（株）建設技術研究所 大阪支社
☎06-6944-7777

（株）構造技研 関西支社
☎06-6303-1280

構造計画コンサルタント（株）大阪支社
☎06-6394-2711

晃和調査設計（株）
☎06-6374-0053

（株）国土開発センター 大阪支店
☎06-6622-1451

国土環境（株）大阪支店
☎06-6448-2551

国土工営コンサルタンツ（株）
☎06-6243-3242

国土防災技術（株）大阪支店
☎06-6747-4551

サンキコンサルタンツ（株）大阪支店
☎06-6379-2022

サンコーコンサルタント（株） 大阪支店
☎06-6305-4531

（株）サンヨー
☎06-6787-3271

（株）三洋テクノマリン 大阪支社
☎06-6746-3401

三和建設コンサルタンツ（株）大阪支店
☎06-6358-1691

ジェイアール西日本コンサルタンツ（株）
☎06-6303-6971

（株）ジェクト
☎06-6484-0311

（株）修成建設コンサルタント
☎06-6452-1081

新構造技術（株）大阪支店
☎06-6282-1281

新日本技研（株）大阪支店
☎06-4706-7001

住鉱コンサルタント（株）大阪支店
☎06-6384-1123

（株）スリーエスコンサルタンツ
☎0726-73-5885

セントラルコンサルタント（株） 大阪支社
☎06-6882-2130

全日本コンサルタント（株）
☎06-6646-0030

（株）総合エンジニアリング 大阪支店
☎06-6647-8270

（株）綜合技術コンサルタント 大阪支社
☎06-6325-2921

第一建設設計（株）
☎06-6353-3051

第一復建（株）大阪本部
☎06-6453-4321

（株）大建技術コンサルタンツ
☎06-6396-3011

大建測量設計（株）
☎06-6314-2800

大成エンジニアリング㈱ 大阪事務所
☎06-6990-4101

大成基礎設計（株）大阪支社
☎06-6456-1531

大日コンサルタント（株） 大阪支社
☎06-6838-1355

大日本コンサルタント（株） 大阪支社
☎06-6541-5601

（株）ダイヤコンサルタント 関西支社
☎06-6339-9141

大和設計（株）
☎06-6385-6101

玉野総合コンサルタント（株） 大阪支店
☎06-6452-9311

中央開発（株）大阪事業部
☎06-6386-3691

中央コンサルタンツ（株）大阪支店
☎06-6268-2541

中央復建コンサルタンツ（株）
☎06-6160-1121

（株）長大 大阪支社
☎06-6541-5793

（株）千代田コンサルタント 大阪支店
☎06-6441-0665

（株）トーニチコンサルタント 西日本支社
☎06-6316-1491

（株）東永設計
☎072-285-7701

東京エンジニアリング（株）大阪支社
☎06-6245-2610

（株）東京建設コンサルタント 関西支店
☎06-6399-2888

（株）東建ジオテック 大阪支店
☎0722-65-2651

（株）東光コンサルタンツ 大阪支店
☎06-6282-6660

東洋技研コンサルタント（株）
☎06-6886-1081

（株）都市建設コンサルタント
☎06-6555-1661

（株）中川設計事務所
☎06-6302-7301

中日本建設コンサルタント（株）大阪支社
☎06-6363-3441

（株）浪速技研コンサルタント
☎0726-23-3695

南海カツマ（株）関西支社
☎0722-41-8561

（株）日建技術コンサルタント
☎06-6766-3900

（株）日建設計 大阪
☎06-6229-6399

（株）日建設計シビル 大阪事務所
☎06-6229-6399

（株）日産技術コンサルタント
☎06-6944-0669

（株）日水コン 大阪支所
☎06-6398-1658

日本技術開発（株）大阪支社
☎06-6359-5341

（株）日本建設技術社 大阪事務所
☎06-6321-5567

日本建設コンサルタント（株）大阪支社
☎06-6453-3033

日本工営（株）大阪支店
☎06-6449-5800

日本構造技術（株） 大阪支社
☎06-6447-2800

（株）日本構造橋梁研究所 大阪支社
☎06-6203-2552

（株）日本構造物設計事務所 大阪事務所
☎06-6533-6621

日本交通技術（株） 大阪支店
☎06-6371-3843

日本シビックコンサルタント（株）
西日本事業部大阪支店　☎06-6309-7500

日本振興（株）
☎0724-84-5200

日本テクノ（株）
☎06-6346-4466

（株）日本パブリック 関西支社
☎06-6368-2232

（株）ニュージェック
☎06-6245-4901

パシフィックコンサルタンツ（株）大阪本社
☎06-6390-8450

（株）パスコ 関西本部
☎06-6214-6700

（株）八州 関西支社
☎06-6305-3245

（株）阪神コンサルタンツ
☎06-6543-0201

（株）ピーエムコンサルタント
☎06-6263-5061

扶桑設計コンサルタント（株）
☎06-6533-6688

（株）復建エンジニヤリング 大阪支社
☎06-6838-3271

復建調査設計（株） 大阪支社
☎06-6392-7200

（株）プレック研究所 大阪事務所
☎06-6541-6161

（株）間瀬コンサルタント 大阪支店
☎06-6385-0891

（株）水建設コンサルタント
☎06-6946-6131

三井共同建設コンサルタント（株）
関西支社　☎06-6599-6011

明治コンサルタント（株） 大阪支店
☎0727-51-1659

八千代エンジニヤリング（株） 大阪支店
☎06-6945-9200

（株）ヨコタテック
☎06-6877-2666

（株）横浜コンサルティングセンター
大阪支店　☎06-6885-0964

◇◇ 兵庫県 ◇◇

（株）アキツ地建コンサルタンツ
☎078-261-9225

アサヒコンサルタント（株）兵庫支社
☎0792-26-2014

（株）カイヤマグチ
☎0792-67-1212

国際航業（株）関西支社
☎06-6487-1111

（株）武仲
☎078-231-2791

（株）ナンバ
☎0798-65-8681

（株）ニコス
☎0796-42-2905

（株）日本港湾コンサルタント 関西支社
☎078-251-6234

阪神測建（株）
☎078-332-5895

（株）メイケン
☎078-451-4180

（株）ワールド
☎06-6489-0261

◇◇ 奈良県 ◇◇

（株）ケー・エスコンサルタント
☎0744-27-3097

（株）シードコンサルタント
☎0742-33-2755

◇◇ 和歌山県 ◇◇

（株）センダイ工部コンサルタント
☎073-462-0678

（株）中山綜合コンサルタント
☎073-455-6335

和歌山航測（株）
☎073-462-1231

和建技術（株）
☎073-447-3913

ワコウコンサルタント（株）
☎073-477-1115

2003年1月現在

世界水フォーラムのご案内

水は持続可能な開発のためになくてはならないものです。水問題の解決を目指して水に関わるあらゆる分野の人々が集まり、それぞれの知見や経験を共有し、行動に移す場として第３回水フォーラムが開催されます。

開催日　2003年3月16日（日）～23日（日）
会　場　京都･滋賀･大阪の各会場
主催者　フォーラム：世界水会議・第3回世界水フォーラム運営委員会
閣僚級国際会議：日本政府
水のえん：各実行委員会

1 閣僚級国際会議

世界各国の水関係閣僚が世界の水問題の解決について議論する場として、日本政府主催で開催されます。

2 式典

開会式や閉会式のほかに、授賞式や優秀な活動を行なった団体の表彰などを行ないます。

3 分科会

様々な分野、立場で地球規模レベルの問題から地域社会レベルの問題まで、学術的あるいは技術的に専門性の高い議論から生活に密着した広く市民が共有する議論まで、多数のテーマ別分科会が開催されます。

4 地域の日

アジア･太平洋、中東、アフリカ、ヨーロッパ、米諸国といった地域の日を設定し、各地域に焦点をあてた分科会が開催されます。

5 フォーラム参加者代表と閣僚の対話

フォーラムと閣僚級国際会議を有機的に連携させるため、フォーラム参加者代表と閣僚の対話の場を設けます。

6 水のえん（水に関するフェア）

歴史的遺産や自然豊かな琵琶湖･淀川流域全体を会場として、参加者の交流を目的に水に関わる様々なテーマの展示やイベントを開催します。

編 集 後 記

新年あけましておめでとうございます。

今回の特集はいかがでしたでしょうか。阪神・淡路大震災直後の復興、まちづくりに際して、地元の人々と地域に根ざしたまちづくりプランナー、コンサルタントがどのように協力して成果をあげてきたかという、過程をとりあげました。

阪神・淡路大震災の復興については、我々、建設コンサルタンツ協会加盟の会員会社、社員、特に近畿支部に関しては、大きな役割を担ってきました。

特に、ライフライン、インフラ等の復興、整備については大きな業績を残しています。

しかし、地元と一体となった地道なまちづくりについては、建設コンサルタンツ協会加盟以外の地元のプランニング会社や個人的な協力など、われわれが日常体験する建設コンサルタントの業務とは多少異なった状況での彼らの活動にささえられていることも事実であります。

特に、まちづくりに取り組んでおられる若手、中堅の技術者の方々には、このような手法もあることを認識していただき、業務の一助としていただければ幸いです。

＝「クリエイトきんき」編集長＝

訂正とお詫び

前号のグリーンツーリズムに関する記事（7頁）について、インタビュー記事をまとめる際、最終確認を怠り、取材先である株式会社グリーンラインツアーズ代表取締役・長谷川善也氏の意図を反映していない箇所があるなど、多大なご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

なお、長谷川様には環境とグリーンツーリズム等に関する記事などを機会がありましたら今後お願いして、氏の真意をお伝えしたいと思っております。

（社）建設コンサルタンツ協会
近畿支部会誌等編集委員会